

路地の鉢植え等のあふれ出しが路地の印象に与える影響

佛教大学 正会員 ○水上 象吾

1. 研究の背景と目的

現在、歴史的な狭小幅員の路地とそのまちなみは、優れた景観資源、空間資産として評価されており¹⁾、路地の空間意識と構成要素との関係や街路景観の印象評価に関する研究が蓄積されてきている^{2,3,4}など。

路地とは、岩波国語辞典(第六版)では第一義として、「大通りなどから折れた、人家の間の狭い通路。」と記される。防災や建築基準法の観点から4m以下の幅員を示す場合、コミュニティの分断要素として10mを閾値としてみる場合等、定義はさまざまあり⁵⁾、幅員の狭い特徴を持つと同時に、「賑わいのある場所を指す」とする場合もある⁶⁾。路地は住人による領域化が進みやすく、路地における植木鉢の表出や住人の所有物のあふれ出しは、領域化を示す一つの指標となり得ることが示されている⁷⁾。路地環境の特徴となる表出・あふれ出しの存在は、路地の印象に影響を与える可能性がある。

以上の問題意識のもと、本稿では、居住地の路地に関する住民の印象構造を把握し、路地の形態、幅員や鉢植え等の存在が印象に与える影響を検討する。

2. 研究の方法

(1) 路地の選定

調査は、歴史的な路地の多い京都市の中心市街地を対象とし、居住地区内の126の路地を選定した。多様な形態、道路幅員、方向を含むよう多数選定した。路地の形態は、両進行方向に見通しが可能な一文字型、片側が閉じているT字型、両側が閉じるI字型、方向が変化するL字型、両側が同一の街路に接する囲い型、行き止まり型、の6分類とした(図1参照)。幅員は人の歩行のみ可能な1m以下の通りから自動車の往来が可能な10m未満の通りまで幅広く選定している。

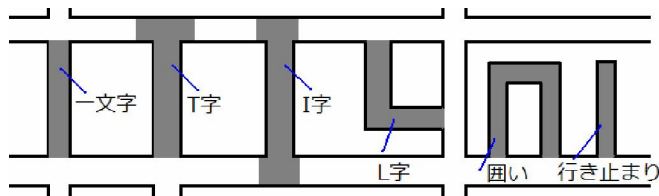


図1 路地の形態分類

(2) 表出・あふれ出しの実態調査

126の路地にて、住戸の表に置かれた、道路上より目視できる植木鉢数をカウントした。住宅敷地内と敷地外の道路上に置かれた植木鉢を含め、路地の長さにて除算し路地毎に1mあたりの植木鉢数を算出した。同様に、

防火バケツの数と敷地外の路上にあふれ出した自転車の台数をカウントした。

(3) アンケート調査

アンケート票は、126の路地に接する住戸1000戸に配布し、ご家族のうちおひとりが回答するよう依頼した。回収数は278票となった(表1参照)。回答者の男女比は、男性40.3%、女性59.7%であり、年齢層は60歳代の回答者が28.6%と多くを占める。戸建て住宅居住者を対象とする配布方法のため、回答者に年齢層が高い傾向があると考えられる。

表1 アンケート調査の概要

調査対象	126路地に接する住戸
調査票配布数	1000票
配布回収の方法	ポスティングによる配布・郵送による回収
配布期間	配布:2012年1月7~10日 締切:1月23日(ただし2月6日まで回収)
回収率	27.8%

3. 路地の印象

(1) 路地の印象構造

住民は路地にどのような印象を持っているのかを探るため、SD法によるアンケートにて、街路景観の印象評価に多く用いられる15の形容詞対により、自宅前の路地に対する評価を得た。路地はどのような印象構造により捉えられているのかを探るため、因子分析(主成分法、バリマックス回転)を行った(表2参照)。

表2 路地の印象についての因子分析結果

項目	因子1 外観性	因子2 親近性	因子3 安穏性
美しさ	.782	.212	.198
風格	.639	.248	.262
統一感	.665	.281	.122
整然さ	.578	.264	.231
明暗	.574	.439	.111
上品さ	.572	.276	.176
新古感	.558	.127	-.029
華やかさ地味さ	.528	.342	.021
自然的人工的	.346	.320	.274
開放感	.301	.642	.025
親しみ感	.312	.633	.247
日常性	.182	.409	.245
静けさにぎやかさ	.012	.040	.745
安全性危険性	.186	.233	.685
快適性	.421	.408	.427
寄与率(%)	20.1	15.4	11.5

分析の結果、第一因子は、「美しさ」、「風格」、「統一感」、「整然さ」などの項目に対して負荷量が高く、路地の見た目や景観など外観にかかわる因子であると解釈できる。第2因子は、「開放感」、「親しみ感」、「日常性」に対して負荷量が高く、路地の親近性に関する因子であると解

キーワード：路地、表出、あふれ出し、鉢植え、印象

連絡先：〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96 佛教大学 e-mail: mizukami@bukkyo-u.ac.jp

積できる。第3因子は、「静けさにぎやかさ」、「安全性危険性」、「快適性」に対して負荷量が高く、路地の安穏性に関する因子であると解釈できる。以上より、住民による路地の印象は、大きくは3つの枠組みで捉えられていることが示された。

(2) 京都らしさの印象

つぎに、因子分析の結果得られた3因子を独立変数とし、「自宅前の路地を『京都らしい』と感じるか」との質問項目により得た5段階尺度による評価を従属変数とする重回帰分析を行った(表3参照)。

表3 京都らしさを説明する印象構造

従属変数:	京都らしさ	標準偏回帰係数	T 値	F検定結果
独立変数:	外観性	0.155	2.604	**
	親近性	0.263	4.393	**
	安穏性	0.185	3.164	**
	定数項		47.503	**
n=254	R=.403	R ² =.162	** P<.01	

その結果、有意差が示され各因子の説明力を標準偏回帰係数にみると、『親近性』が0.263と最も影響が強いことが明らかとなった。住民にとっては、『親近性』の高さが京都らしさの印象に寄与する。では、どのような物理的環境が親近性等の印象に関係するのか、次に路地の形態やあふれ出しとの関連を調べる。

4. 物理的環境による印象への影響

(1) 路地の形態と幅員

路地の形態の違いと幅員による印象の差を検討した。路地の形態6分類を進行方向の見通しのよさと通り抜けの必然性により順にし、3.における印象評価の3因子との関係を相関分析により調べた。同様に幅員と印象との関係を調べた。

結果、形態の違いは『外観性』との間に有意差が認められた。幅員では『外観性』と『安穏性』との間に有意差が認められた(表4参照)。

表4 路地環境と印象との相関分析結果

路地環境	外観性	親近性	安穏性
路地の形態	r=.162**	-	-
路地の幅員	r=-.160*	-	r=.160*

** p<.01, * p<.05, - 有意差なし

路地の見通しや通り抜けがよく幅員が広いほど外観に関するよい印象が得られ、幅員が狭いほど安穏において静けさや安全性が高い傾向がみられた。

(2) 表出・あふれ出し

路地のあふれ出し物の実態調査の結果、126の街路にて植木鉢数は合計13464鉢、路上の自転車は467台、防火バケツは698個観察された。路地毎の1m辺りの個数と路地の印象との関係を相関分析により調べた。

結果、植木鉢数は『親近性』との間に、自転車数は『外観性』との間に有意差が認められた(表5参照)。鉢植えが多く置かれることで路地の親近性は高まる一方、あふれ出しの自転車が多いと外観性の評価は低くなり、SD評

価項目との関連では「下品」、「閉鎖的」、「雑然」、「暗い」、「危険」といった評価の傾向がみられた。

表5 あふれ出し物と印象との相関分析結果

あふれ出し物	外観性	親近性	安穏性
植木鉢数	-	r=-.126*	-
自転車数	r=.160*	-	-
防火バケツ	-	-	-

** p<.01, * p<.05, - 有意差なし

5. 考察

住民の路地の印象構造を検討した結果、主に外観性、親近性、安穏性の3つの枠組みにより捉えられていることが示された。路地の形態の違いは外観性の違いに影響し、幅員は外観性と安穏性に影響する。住戸の表に置かれた植木鉢は親近性を高める効果がある一方、路上にあふれ出した自転車の存在は外観にかかわる印象を悪くする傾向が示された。幅員が狭い路地ほど閉鎖性が高く、結果として住人の領域化がすすみ、表出・あふれ出しが多くなると考えられるため、路地の形態と表出物の量は関連すると想定される。路地の生活感や親近性をもたらすあふれ出しは路地の景観資源・空間資産となり得るが、あふれ出す物の種類によって土地柄や印象の良し悪しに影響を与えようと考えられる。

付記

本研究は大学コンソーシアム京都「平成23年度 未来の京都創造研究事業」の助成により行われたものである。

参考文献

- 1) 宇杉和夫・青木仁・井関和朗・岡本哲志(2010)「まち路地再生のデザイン 路地に学ぶ生活空間の再生術」彰国社, 258p.
- 2) 茶谷正洋・八木幸二・石川清・中沢敏彰・安藤直見・橋本浩子(1989)「路地空間における構成要素と空間意識に関する研究」日本建築学会大会学術梗概集, pp. 1003-1004.
- 3) 川瀬由弘・佐藤仁美・原田昌幸・亀井栄治・久野覚(1999)「街路景観の印象評価に関する研究～SD法による街路景観印象評価～」日本建築学会東海支部研究報告集第37号, pp. 457-460.
- 4) 佐藤仁人・宮谷梨江(2009)「京都にふさわしい街路の夜間景観に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 391-392.
- 5) 西村幸夫編著(2006)「路地からのまちづくり」学芸出版社, 269p.
- 6) 岡本哲志(2006)「江戸東京の路地 身体感覚で探る場の魅力」学芸出版社, 175p.
- 7) 湯浅義晴・篠崎健一・青木義次(1987)「路地空間におけるあふれ出しの発生要因」日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 51-52.